

中国における江戸時代怪異小説についての研究

著者	李 杰玲
雑誌名	世界の日本研究
巻	2020
ページ	48-59
発行年	2021-03-31
その他の言語のタイトル	Researching the Mystery Novels of the Edo Period in China
URL	http://doi.org/10.15055/00007626

中国における江戸時代怪異小説についての研究

李 杰玲*

本稿は、中国学術界における江戸時代の怪異小説に関する研究の現状と、その展望を述べたものである。怪異小説の研究は「迷信を排除し、科学を提唱する」という国のモットーにそぐわず、研究に必要な資料も十分ではない。まして、中国人の研究者にとって、江戸時代のくずし字は読みづらい。ゆえに、中国では大学院生の学位論文以外の江戸怪異小説の研究が少なく、大学院生が研究の主力になっている。彼らの研究の多くは、江戸怪異小説を日中比較文学論上に載せて考察している。

キーワード：中国、江戸時代、怪異小説、若手研究

本稿は中国学術界における江戸時代の怪異小説（以下「江戸怪異小説」）についての研究現状とその展望を述べたものである。ここで言う怪異小説は、江戸時代の読本や百物語や草双紙を含み、幽霊、妖怪、鬼及び怪異現象に関して、挿絵が付いている小説を指す。これは、筆者が国際日本文化研究センター（以下「日文研」）の外国人研究員として滞在している期間の研究テーマと関わりがある。筆者は日文研に着任する前、中国側の江戸怪異小説に関わるさまざまな研究成果を集めた。現在も、新しい研究成果については整理を続けている。こうした資料に基づいて、江戸怪異小説に関する中国側の研究の現状を述べる。本稿は体系的な現状調査報告ではないが、研究現状を分析しながら関連問題を提起し、今後の展望を検討することを試みたい。

* 海南師範大学国際教育学院副教授

怪異小説と言えば、現実と日常生活から離れた幽霊、鬼、妖怪などの話と思われており、それは、中国の「反対迷信、提倡科学」¹、即ち迷信的な要素を排除し、科学的な見方や考え方を提唱する思想に沿わない。こうした思想を主導する現在の中国において、全ては合理化される傾向が著しい。幽霊、鬼、妖怪がしばしば登場する怪異小説を研究すれば科学的な考え方に抵触しやうい。それに応じて、怪異小説についての論文を掲載する学術誌も比較的小さいので関連研究も多くない。学会も、民間文学学会、明清小説学会等はあるが、怪異小説学会のようなものはいまだになく、管見によると、中国大陸で行われた日中の妖怪に関するシンポジウムは、中国民俗学会と日文研が共催の「中日妖怪学術研究シンポジウム」（2019年3月23日、北京）が初めてである²。

江戸怪異小説に関する文献の翻訳と日本語資料の所蔵

中国における江戸怪異小説研究が少ない理由として、上述の「反対迷信、提倡科学」の思想の他に、研究に必要な資料が国内に極めて少ないことも挙げられる。本節では中国にある江戸怪異小説関連資料を記す。

はじめに、中国語訳の資料を見てみよう。2009年から2019年の10年間にわたって、江戸怪異小説についての資料の翻訳出版が続いている。例えば、『図説日本妖怪大全』³、『百物語』⁴、『妖怪談義』⁵、『画図百鬼夜行』⁶、『妖怪 YOKAI』⁷、『日本の妖怪大全：妖怪・あの世・神様』⁸、『鳥山石燕画図百鬼夜行全画集』⁹、『決定

1 中国延安精神研究会（編）《群众工作史》、北京：中央文献出版社、2015年、212頁。

2 中国民俗学会 HP 記事による。<https://www.chinesefolklore.org.cn/web/index.php?NewsID=18885>

3 水木茂《图解日本妖怪大全》、西安：陕西师范大学出版社、2009年。

4 杉浦日向子、刘玮《百物語》上・下、兰州：甘肃人民美术出版社、2013年。2009年にも南海出版社より出版された。

5 柳田国男、贾胜航（译）《妖怪谈义》、重庆：重庆大学出版社、2014年。

6 鸟山石燕（绘）、希年（编）《魑魅魍魎百物語》上・下、哈尔滨：北方文艺出版社、2014年。江戸時代中期の浮世絵師鳥山石燕（1712～1788）の妖怪画200点を紹介したもの。

7 小松和彦、宋衡（译）《妖怪》、北京：新星出版社、2016年。

8 水木茂《妖怪大全》、海口：南海出版公司、2017年。764匹に及ぶ日本の妖怪と112柱の神様、19話の怪談を紹介している。

9 鸟山石燕（绘）、杨雪（编著）《百鬼夜行全画集》、沈阳：万卷出版公司、2018年6月初版、同年9月重版。

版日本の妖怪』¹⁰、『一日江戸人』¹¹、『日本の伝説』¹²、『月岡芳年 没後 120 年記念』¹³などが翻訳されている。その他、京極夏彦の妖怪推理小説シリーズは中国でも人気が高く、若者層に日本の妖怪文化と怪異伝説をある程度普及させる契機となった。中国での京極夏彦の小説の翻訳出版は、2008 年の『姑獲鳥の夏』、2009 年の『巷説百物語』¹⁴から始まり、2018 年に『奇談百物語・眩』と『書楼弔堂・破暁』¹⁵が相次いで出版され、現在まで続いている。

ところで、江戸怪異小説の翻訳と言えば、江戸時代後期の上田秋成（1734～1809）の『雨月物語』及び『春雨物語』¹⁶が挙げられるが、他の江戸怪異小説の翻訳は少なく、江戸怪異小説についての専門知識を持つ研究者や関連研究も少ない。現在、中国では、主にベストセラー小説、及び一般市民向けの挿絵が付いている漫画風の奇譚短編集の形で、江戸怪異小説を受容している。

次に、江戸怪異小説に関する日本語資料について見てみると、『日本古典文学全集（48）』¹⁷のようなものも所蔵されているが、学術的な研究に必要な資料は足りていない。以下の表 1 に、広東省立中山図書館（広州）、上海図書館、中国国家図書館（北京）、北京外国語大学付属図書館、上海外国語大学付属図書館の五つの図書館に所蔵されている「物語」及び「草紙」に関わる日本語著書の数をまとめた。

10 小松和彦、飯仓义之（编）、黄昱翔（译）《日本妖怪绘卷》、天津：天津人民出版社、2018 年。

11 杉浦日向子、刘伟（译）《一日江戸人》、北京：北京联合出版公司、2015 年。2007 年 11 月にも陝西師範大学出版社より出版された。

12 柳田国男、曹珺红（译）《日本传说》、西安：陕西人民出版社、2018 年。

13 太田纪念馆美术馆（编）《月岡芳年 妖怪百物語》、北京：中国华侨出版社、2019 年。

14 京極夏彦《姑獲鳥之夏》、上海：上海人民出版社、2008 年。《巷説百物語》、北京：北京十月文艺出版社、2009 年。

15 京極夏彦《奇談百物語・眩》、成都：四川文艺出版社、2018 年。《書楼弔堂・破暁》、上海：上海人民出版社、2018 年。

16 上田秋成、王新禧（译）《雨月物語 春雨物語》、北京：新世界出版社、2010 年。2014 年にも陝西人民出版社より出版された。

17 中村幸彦、他（校注・訳）『日本古典文学全集（48）英草紙 西山物語 雨月物語 春雨物語』、小学館、1973 年、陝西師範大学所蔵。

表1 「物語」及び「草紙」に関する図書館別蔵書数

図書館	「物語」に関する蔵書数(冊)	日本語の江戸怪異小説関連(冊)	備考
広東省立中山図書館	101	3	1912年開館、蔵書861.18万冊(2017年年末統計)。2018年、「国家一级図書館」の称号を得た。「草(紙)子」で検索すると、『枕草子』のみ抽出された。
上海図書館	144	3 (うち2点は『雨月物語』『春雨物語])	1952年開館、蔵書5500万冊余り(2015年年末統計)。「草(紙)子」で検索すると、江戸怪異小説と関連する資料は『仮名草子』1点だけである。
中国国家図書館(北京)	600	5 (うち3点は『雨月物語』である)	前身は1909年に開館した京師図書館。中国で唯一の国立図書館である。蔵書数は3768.62万冊(2017年12月統計)。「草(紙)子」で検索すると、江戸怪異小説と関連する日本語資料は85点ある。
北京外国語大学附属図書館	438	28	1941年開館、蔵書は145万冊近い(2018年9月統計)。「草(紙)子」で検索すると、江戸怪異小説と関連する資料は21点ある。
上海外国語大学附属図書館	357	3	1950年開館、蔵書は108.7万冊余り(2015年1月統計)。「草(紙)子」で検索すると、江戸怪異小説と関連する資料は25点ある。

この表に挙げている図書館は、公共図書館と大学附属図書館を含め、「三大都市」と称される北京、上海、広州に設置されている。この三都市は、それぞれ華北、華東、華南地域全体の経済、文化、教育の中心であるから、これらの図書館の江戸怪異小説に関する蔵書数は、中国の蔵書状況を一定程度反映していると捉えてよいだろう。「物語」に関する蔵書数(冊)は図書館のホームページのOPACで「物語」と「草(紙)子」をキーワードとして、日本語著書(中国人が日本語で書いた本も含む)に限り、検索して出たものである。筆者はそれらの資料を一冊ごとに現物調査していないが、「一斑をみて全豹を知る」と言うように、表にまとめている蔵書数という「一斑」からも、江戸怪異小説に関する中国所蔵資料が非常に少ない状況を察することができるだろう。中国の研究者は江戸怪異小説の関連資料が十分に入手できず、『日本大百科全書』『新編日本古典文学全集』といった出版物や、「CiNii」などのデータベースも中国で利

用できないため、中国で江戸怪異小説を対象として研究を行うことが困難であることが分かる。筆者自身の例を挙げるなら、数年前、上述の『図説日本妖怪大全』と『百物語』などの訳本から、江戸怪異小説への関心が高まり、特に草双紙において、挿絵と言葉の関係に興味を持ち研究しようと思ったが、資料が足りなかつたので、日文研へ来る前には、江戸怪異小説の研究が実現できずにいた。

日中比較視座における江戸怪異小説の研究

江戸怪異小説は「反対迷信、提倡科学」に沿わないため、中国では研究に必要な資料も十分ではない。まして、中国人の研究者にとって、江戸時代のくずし字は読みづらい。こうした理由から、筆者が現在まで中国で収集してきた資料を見ると、江戸怪異小説の研究は少なく、博士論文と修士論文を中心に、大学院生が研究の主力となっていることがわかる。

大学院生の論文は、江戸怪異小説を日中比較文学論の俎上に載せて研究することが最も多い。中国最古の地理書『山海経』（前4世紀～3世紀頃成立）で既に登場する異類は、悠久の歴史において生じる伝統的なもので、妖怪、幽霊、鬼などの異類は清代小説でも活躍していた。江戸怪異小説は『山海経』だけではなく、六朝の志怪小説、唐代伝奇、明清小説と密接な関係を持っていることに、若手の研究者たちは注目している。

下記の表2に主要な研究成果の例を示す。

表2 江戸怪異小説を研究対象とする中国の博士論文、修士論文
(括弧内の日本語タイトルは本稿の著者による訳)

タイトル	作者	専攻	大学	提出年月	比較論	学位論文
日本江戸时期“读本小说”与中国明代小说：以《雨月物语》为中心的考察与研究 (日本江戸時代における読本小説と中国明代小説について：『雨月物語』を中心に)	汪俊文	中国古代文学	上海師範大学	2006年3月	○	修論
《雨月物語》中的人鬼恋小说与明代小说比较研究 (『雨月物語』における人と鬼との恋及びそれと明代小説の比較研究)	李伯祥	比較文学及び世界文学・日本文学	吉林大学	2007年4月	○	修論

日本近世小说观研究 (日本近世小説観についての研究)	勾艶軍	比較文学及び 世界文学・日 中比較文学	天津師 範大学	2008年 4月	○	博論
日本江戸時代読本小说与中国古代小説 (日本における江戸時代の読本小说 と中国古代小説)	汪俊文	中国古代文学	上海師 範大学	2009年 3月	○	博論
从《春雨物語》看上田秋成佛教 观、町人伦理观及国学思想 (『春雨物語』から見る上田秋成の仏 教観、町人の倫理観及び国学思想)	程玉環	比較文学及び 世界文学・日 本文学	同上	2011年 3月	×	修論
《御伽草子》中的世界：以山中他界为 中心 (『御伽草子』における他界につい て：山中他界を中心に)	李漫琪	日本文学	天津外 国語大 学	2012年 6月	×	修論
关于浅井了意道教思想受容的研究 (浅井了意の道教思想の受容につい て)	嚴珊	日本文学	西安外 国語大 学	2013年 3月	×	修論
《雨月物語》中的儒家思想研究：以其 与《论语》的关系为中心 (『雨月物語』における儒家思想の研 究：『論語』との関わりを中心に)	宋琦	日本文学	内蒙古 大学	2013年 6月	×	修論
上田秋成文学与晚明文学思潮 (上田秋成文学と晚明文学思潮)	岳遠坤	日本文学	北京外 国語大 学	2014年 3月	○	博論
论日本的妖怪文化：以柳田国男的 《妖怪讲义》为中心 (日本における「妖怪」とは何か：柳 田国男の『妖怪談義』を中心として)	傅鵬宇	日本文化	華中師 範大学	2014年 5月	×	修論
从传说的妖怪到绘画的妖怪：浅谈日 本妖怪文化艺术语言的转换和发展 (伝説における妖怪から絵画での妖 怪へ：日本妖怪文化芸術言語の転換 と発展についての一考察)	呉宜簡	美術学	雲南芸 術学院	2014年 6月	×	修論
浅井了意《伽婢子》研究：以对《剪 灯新话》中经世思想的吸收为视角 (浅井了意『御伽婢子』研究：『剪灯 新話』における経世思想への受容を 視点に)	盧俊偉	日本文学	北京外 国語大 学	2015年 3月	○	博論

明清小说对日本江戸读本小说的影响 (明清小説から日本江戸時代の読本小説への影響)	芦新蕾	中国古代文学	瀋陽師範大学	2015年 5月	○	修論
比较视域下的中日“妖怪”与“妖怪学”研究 (比較視座における日中「妖怪」及び「妖怪学」研究)	王鑫	日本文学	同上	2015年 10月	○	博論
《耳袋》中的妖怪：关于江戸民俗系妖怪的考察 (『耳袋』における妖怪：江戸民俗系妖怪に関する一考察)	柏氷	日本社会文化	同上	2016年 5月	×	修論
井上圓了の妖怪学及啓蒙思想 (井上円了の妖怪学とその啓蒙思想)	職文芳	外国言語学及び応用言語学	東華大学	2016年 12月	×	修論
关于《雨月物語》的男性批判：以《吉備津之釜》为例 (『雨月物語』における男性批判：「吉備津の釜」を中心に)	郭程程	日本文学	同上	2017年 3月	×	修論
《雨月物語》中的“大丈夫”形象 (『雨月物語』における「ますらお」像)	唱怡	日本文学	北京外国語大学	2018年 3月	×	修論
日本合同文化与中国龟崇拜 (日本の河童文学と中国の亀崇拜)	李江龍	日本文学	貴州大学	2018年 6月	○	修論
关于《雨月物語》《春雨物語》中的“信” (『雨月物語』『春雨物語』における「信」について)	崔亜蒙	日本文学	吉林大学	2018年 6月	×	修論
中日传统妖怪形象比较探究 (日中における伝統的な妖怪のイメージの比較探究)	朱井井	外国哲学	延辺大学	2019年 5月	○	修論
周作人与柳田国男的比较研究：基于“鬼怪思想”的视角 (周作人と柳田国男との比較研究：「鬼怪思想」の視座から)	段奥曼	日本文学	曲阜師範大学	2019年 6月	○	修論

表2の論文の特徴として目立つのが、日本と中国の比較研究において、中国文学から江戸怪異小説へのさまざまな影響を強調する傾向である。例えば、李江龍の修士論文『日本の河童文学と中国の亀崇拜』は、中国の亀文化による江戸時代の河童のイメージとその変化への影響論が展開されている。博士論文の場合、勾艶軍の『日本近世小説観についての研究』は「日本近世における小説

観は中国の古代文学理論の深い影響を受けた」と主張している。岳遠坤の博士論文『上田秋成文学と晚明文芸思潮』では、明代の王陽明（1472～1529）が起こした儒教一派の思想である陽明学の、上田秋成の文学創作への影響が論じられている。『雨月物語』と上田秋成についての研究も多く見られ、中国での上田秋成に関する研究現状を総合的に述べる論文もある¹⁸。

江戸怪異小説についての研究成果は、修士論文と博士論文以外に、学術誌に発表された論文も数点ある。例えば、藤田祐賢と王枝忠の『『聊齋志異』の一考察：日本文学との関係をめぐって』、呉豔の「日本近世の怪異文学における中国の志怪伝奇の変容：『御伽婢子』を例に」、藩静恵の「上田秋成の翻案小説の特徴について：『菊花の約』の分析を通じて」が挙げられる¹⁹。王晓平の「翻案と改作：江戸時代における十三篇の翻案小説をめぐって」²⁰は、都賀庭鐘（1718～1794）によって書かれた『英草紙』から2篇、『繁野話』と『雨月物語』から各1篇、雲府観天歩（寛政～享和頃）の『栈道物語』、司馬芝叟（1760?～1808?）の長話『売油郎』など、合わせて13篇の小説の梗概を紹介しながら、明清小説と比較研究するものである。これも明清通俗小説の深い影響を受けたことを前提にして、江戸怪異小説を分析している。

江戸怪異小説に関する著書も数点ある。王新福の『夢幻のような：日本妖怪奇譚』²¹は、日本の妖怪文化と江戸怪異小説を紹介しながら、妖怪文化と物語の関係論を展開したものである。因みに、妖怪文化と言えば、王鑫の「日本の妖怪についての研究」²²のような日本の妖怪文化の研究動向を述べる論文もある。また、妖怪たちが現代に至るまで、どのように受容されてきたのかを論説する著書も出てきた。周英の『怪談：日本のアニメにおける伝統的な妖怪』²³、肖霞

18 孔祥恵《上田秋成研究綜述》、《文史月刊（学术）》2012年第11期、63頁。

19 藤田祐賢、王枝忠《『聊齋志異』的一个側面：它和日本文学的关系》、《北方民族大学学报》1990年第3期、29～38頁。呉艳《中国志怪传奇在日本近世怪異文学中的形变：以〈御伽婢子〉为例》、《河北大学学报》2012年第6期、25～31頁。藩静恵《通过〈菊花之约〉浅析上田秋成的“翻案”小说特征》、《日语教育与日本学》、2019年第1期、133～141頁。

20 王晓平《仿构与翻新：江戸时代翻案的话本小说十三篇》、《明清小说研究》、1993年第3期、162～178頁。

21 王新福《宛若梦幻：日本妖怪奇譚》、西安：陕西人民出版社、2013年。

22 王鑫《日本“妖怪”研究的历史回顾》、林美茂、郭连友（编）《日本哲学与思想研究2016》、北京：中央编译出版社、2017年、122～132頁。

23 周英《怪谈：日本动漫中的传统妖怪》、北京：北京传媒大学出版社、2017年。

の『日本現代女性文学の主題表現と価値選択方向』第1章の山姥の現代受容についての分析²⁴はまさにそれに当たる。

日本文学に関する著書の中で、江戸怪異小説に触れているものもある。例えば、謝六逸の『日本の文学』²⁵の第3編「小説」では、草双紙、読本、及び上田秋成、山東京伝(1761～1816)らの小説家を通して江戸時代の多種多様な小説ジャンルが紹介されている。また、李京美の『伝奇の中に生きている女性たち』²⁶は、韓国、日本、中国の怪異小説における女性のイメージを比較するもので、その第4章と第5章では、江戸怪異小説は『剪灯新話』『剪灯余話』を翻案することが多いことを指摘し、『御伽婢子』の「牡丹灯籠」と『剪灯新話』の「牡丹灯籠」による具体的な比較を通じて、両方の共通点と相違点を表にし、それらの小説における女性像の変化を論じている。

上記の研究成果は、比較研究が主である。なぜ中国の研究者は比較研究に拘泥するのか。管見では、二つの理由がある。一つ目は、江戸怪異小説に関する資料が足りないことである。特に研究に必要な関連資料が不足しており、江戸

24 肖霞《日本現代女性文学の主題表达与价值取向》、济南：山东人民出版社、2016年。著者は、日本の妖怪の中で山姥が女性と母性を象徴することと、現代日本の女性作家たちが、山姥をモチーフにして多種多様な女性像を描き出していることを指摘している。不幸を被ったり不公平な扱いを受けたりして、社会に見捨てられる女性のイメージが強い一方、山姥を現代の女性のイメージキャラクターと見なす作品や女性作家も少なくない。周囲に影響されず、自分のやり方を貫き、独立と自由自在を求める女性像である。山姥は、また、女性の性欲と子供を産む能力を持つ「大地の母」や、妖艶な美を持つ巫女のような存在でもありうると、著者は述べている。

25 謝六逸《日本文学》、上海：商务印书馆、1931年。

26 李京美《那些活在传奇中的女子》、北京：北京燕山出版社、2004年。その他、江戸怪異小説と明清小説の比較研究をしているものとして、严绍璩《中日古代文学交流史稿》（福州：福建教育出版社、2016年）の第8章第2節と第3節は、明清小説と江戸時代の仮名草子及び読本を比較研究している。嚴紹璩、王晓平《中国文学在日本》（广州：花城出版社、1990年）の第3章では、江戸時代の小説と明清小説の比較研究に触れている。钱林森、周宁、王晓平（合著）《中外文学交流史 中国-日本卷》（济南：山东教育出版社、2015年）の第7章は、江戸時代の読本はどのように明清小説を受容したかを論じている。吴伟明（編）『中国小说与传说在日本的传播与再创』〔中国小説と伝説の日本での受容と翻案〕（上海：上海交通大学出版社、2018年）は、日本近世小説・妖怪文化と中国文化・文学の相互関係を論じている。また、江戸怪異小説を含め、日中の小説の比較研究には、马兴国《中国古典小说与日本文学》〔中国古典小説と日本文学〕（沈阳：辽宁教育出版社、1993年）がある。

怪異小説を研究するのが難しい。そもそも江戸怪異小説はくずし字で書かれたものが多く、中国人にとって読みづらいのだが、翻刻した上、中国語に訳されている黄表紙、百物語などの江戸怪異小説は本当に少ない。関連訳本もあるが、それはほとんど一般向けのベストセラー小説や漫画のようなもので、研究に適しているとはいえない。

二つ目の理由は、中国人研究者が、日本文学の中に自国の文学や文化を読み取りやすいことにある。両国の文学交流の歴史が深く、そして密接な関係を持っていることを考えれば当然のことかもしれない。ただし、ストーリー構造の要素や主人公のイメージなど、相違点の指摘と、その差が生じる理由のみを分析し内容面の比較に留まることが多く、歴史及び文化の視点からその理由を十分に考慮した研究は少ない。

展 望

江戸時代は日中文学交流の歴史上、重要な時期と言える。日本は二百年に及ぶ鎖国政策を実施していたものの、長崎を窓口として、日中の貿易と文学交流は続いていた。しかし、中国では、怪異小説を含む江戸時代の文学に関する研究は不足している。また、江戸時代の文学は中国文学からの影響を受けたことを主張する傾向が強く、江戸時代の文学の特徴と独自の発展を論じるものが非常に少ない。これは、江戸時代の文学への認識と理解が中国人研究者に不足していることを表している。このままでは、江戸時代の文学が中国文学からの影響を受けたことを主張する傾向が強まるだけで、未来の関連研究を多角的に推進することは難しい。

今後、江戸怪異小説の研究を進めるためには、図書館をはじめとして、より多くの関連資料が必須である。それに加えて、現在の中国の大学でよく使われ

ている東洋文学史や日本文学史の教材²⁷では、江戸文学について概略的に述べられているのみで、その経緯や内容に関する専門的な解説が不十分であり、生徒たちに深い印象を与えにくい。大学の教育では、江戸文学について、より一層詳しく、且つ全体的に解説しなければならないと考えている。

Researching the Mystery Novels of the Edo Period in China

LI Jieling*

This paper examines the present situation and perspective of research in China on Edo-period mystery novels. In China, these studies do not fit the current guiding ideology of “opposing superstition, promoting science” and, furthermore, there is a lack of original material necessary for academic research. In addition, these novels were written in the cursive style common to the Edo period and are difficult to understand

27 東洋文学史については郁龙余《东方文学史》（北京：北京大学出版社、2004年）などがある。日本文学史については、谢六逸《日本文学史》（上海：上海书店出版社、1929年）、王长新《日本文学史》（北京：外语教学与研究出版社、1982年）、吕元明《日本文学史》（长春：吉林人民出版社、1987年）、雷石榆《日本文学简史》（石家庄：河北教育出版社、1992年）、张如意（编）《日本文学史》（保定：河北大学出版社、2004年）、唐月梅《日本文学》（上海：上海三联书店、2006年）、李光泽（主編）《日本文学史》（大连：大连理工大学出版社、2007年）、张龙妹・曲莉《日本文学史》（北京：高等教育出版社、2008年）、李先端（编）《日本文学简史》（天津：南开大学出版社、2008年）、高鹏飞（编）《日本文学史》（苏州：苏州大学出版社、2011年）などがある。いずれも江戸時代の文学への解説は短い。例えば、王長新の『日本文学史』には、「近世の文学」という章があるが、近世の小説では、井原西鶴（1642～1693）の浮世草子を紹介し、洒落本、滑稽本及び人情本に少し言及しているのみである。張如意の『日本文学史』は河北大学教材出版基金の助成を受け、日本語で書かれた教科書で、第4章「近世の文学」は、江戸時代の漢詩、和歌、仮名草子等をそれぞれ簡潔に紹介しているが、洒落本、滑稽本及び人情本の意味は300文字程度で解説するのみである。唐月梅の『日本文学』は、室町時代と江戸時代の文学を合わせて、3頁以内の概説を加えている。江戸時代の文学のみを専門的に取り上げる中国語の教科書は、現時点では見つかっていない。

* Associate Professor, College of International Education, Hainan Normal University

for Chinese researchers. This is why, aside from some postgraduate theses, there has been little published on these novels, and consequently it is postgraduate students who are doing much of the research on this genre. Many of these studies focus on the study of comparative literature between Japan and China.

Keywords: China, Edo Period, mystery novels, young scholars